

西尾市民病院
中期計画等評価委員会意見集

西尾市民病院

令和4年1月20日

目 次

- 1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について . . . 1
- 2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について . . . 1
- 3 委員からいただいたご意見と当院の考え方について . . . 2～3
- 4 委員からいただいたご感想等について . . . 4
- 5 今後の予定について . . . 5

1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について

西尾市民病院中期計画（以下、「中期計画」という。）は、平成26年度、当院が地域に求められる医療を安定的かつ永続的に提供していくための基本方針として定め、市民参画のもと、西尾市民病院中期計画策定委員会で策定されたものです。

改革プランは、平成27年度末に、国から公表された公立病院改革ガイドライン（以下、「ガイドライン」という。）に従って策定したものです。

内容は、愛知県の地域医療構想との整合性を図りつつ、中期計画の基本方針を補完する具体的な事務事業を定めたものです。

策定後の進捗状況の点検・評価について、ガイドラインでは、市民参画のもと検討することが望ましいとされているため、当院では、西尾市民病院中期計画等評価委員会を設置し、ご意見をいただくこととしました。

2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について

平成30年度から西尾市民病院中期計画等評価委員会を開催し、改革プランの進捗状況の点検及び評価を行ってきました。本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、参集しての会議の開催を見合わせ、進捗状況表を郵送し、書面による意見聴取を行うことで、点検や評価を行いました。

3 委員からいただいたご意見と当院の考え方について

番号	取組項目		委員からいただいたご意見	当院の考え方
1	1 収益向上に向けた取り組み	10 がん診療機能の充実	人間ドックや乳がんドックについての充実が図られ、また多くの市民が周知することとなった。今後はより多くのがん患者への対応が必要になると考えられる。施設については問題点も多いと思われるが、創意工夫して、受入人数の増加をはかってほしい。 がん患者にとって、地域がん診療連携拠点病院への通院不可能となった時の不安は大きい。連携のシステムを早急に整えていただきたい。	がん患者さんにとっては、告知された時から不安となるため、専門職が集まった「緩和ケアチーム」により、患者さんの個々の状態に合わせたきめ細かなケアを実施しています。 また、当院ではACP(アドバンス ケア プランニング:人生会議)活動を推進しており、患者さんが在宅で最後までご家族と過ごせるように地域の往診医や訪問看護師と連携して対応しております。 当院の活動が、地域の人たちに周知できるように広報活動を行ってまいります。
2			改革プラン進捗状況表を項目ごとに見てみますと、右端に設けられている「未達成などの理由及び今後の方向性」の欄に『医師不足、医師確保の見通しが立たない、看護師不足や人員確保が困難、スタッフの人的余裕がない』の文言が随所に見受けられます。施設等の充実も大切ですが、医療人材の確保こそ、今求められている最大の課題であると感じます。西尾市民の健康寿命向上のために、より一層、財源及び人材の確保に努めてほしいと思います。	令和3年度においては、脳神経外科と神経内科に若い優秀な医師が2人赴任したことをきっかけに、今はまだ部分的ではありますが、脳卒中の救急対応ができるようになっております。また、手術経験が豊富な産婦人科の医師も1人赴任しております。 今後も、市長をはじめ、院長、副院長が大学医局等を訪問して医師の派遣依頼をしたり、医学生に奨学金制度をPRして当院の魅力を発信したりして、粘り強く医師確保策を継続実施してまいりたいと思います。
3	1 収益向上に向けた取り組み	11 医師の確保	医師確保の取り組みについて、なお一層の工夫と努力が望まれます。 多くの取り組み項目で医師不足が原因で未達成となっています。このことから医師の確保が最重要課題であると思います。医師確保の困難さも周知の事ですが、市民の為に一層の工夫と努力を重ねていただきたいと思っております。そういった状況の中での医師確保の取り組みで、詳細取組1 民間紹介会社活用の事業計画で登録開始、契約プランの評価・見直しと昨年より一歩進んだ事業計画が掲げられていることと当直代務医師の採用が昨年2名に対し2年度は3名になっていることは良かったと思っております。 また、詳細取組4 寄附講座開設に向けた大学医局との調整では事業計画に寄附講座開設の検討から一歩進んだ寄附講座開設が挙げられていることにも着目したいと思います。 以上の2点から医師確保に向けて地道な努力をされていることは理解できますが、進捗状況が緩やかだという思いは強いです。今後期待します。	民間の医師紹介会社活用による採用については、令和3年度は代務医師1名であり、必ずしも安定した医師確保に繋がっているとはいえません。 また、民間企業や行政組織など、大学や研究機関の外部組織から教育・研究振興のために寄附された資金を活用し、医学的な研究や教育を行う活動の寄附講座についてですが、全国的な医師不足に加え、地域医療バランスや研究内容などを考えますと、資金だけの問題ではないため、調整が難航し立上げは容易ではない状況です。 しかしながら、地道な医師確保のための大学医局等への働きかけや医師確保奨学金制度の活用などが実を結び、令和3年度においては、研修医を除いた常勤医師が4人、研修医が3人と、合計で前年度に比べ7人増え、常勤医師が58人となり、少しずつですが体制が強化されてきていますので、今後も努力してまいります。
4			病院PR誌「リンク」の内容の充実が図られ、“病院の医療取り組み姿勢”、“診療内容”、“医療に携わる者の思い”等市民への周知にはつながると思われる。 実際にPR誌を目にする事はなかったが、とてもよい内容なので、公共施設(子どもや老人対象の施設も含め)で掲示して頂いた上で配布分も置いたらいいのではないかと。また、病院内での掲示も必要と思われる。	病院広報誌は令和2年度から内容を刷新し「Ciao」として新たに発刊し、院内、市役所をはじめ市内公共施設33か所と医師会へ配布しております。 年4回発行しておりますが、その中で特に市民の方へお知らせしたい内容については、広報にしておへ折込をし全戸配布をしております。今後もより多くの情報を市民の方へ周知できるようにPR活動をしてまいります。
5	1 収益向上に向けた取り組み	17 戦略的広報の展開	広報活動が前年度に引き続き、積極的に取り組まれていることが評価できると思います。病院PR誌は昨年度2回発行が2年度は4回発行されており積極的な広報活動が評価でき、読みやすく内容も充実していると思います。 市内の医院の待合室に、この広報誌を置くことが出来ると待ち時間に手に取ってもらえらるとともに、医院と市民病院との連携がより深まるのではと思います。	当院の魅力や強み、取り組み内容を広く市民の方へ知っていただくことは大変重要であり、委員がおっしゃるとおり、当院と市民の信頼関係や当院と市内医療機関との連携を深めていくためにも、病院広報誌を通じて積極的に情報発信をしてまいりたいと考えております。 現時点におきまして、既に市内医療機関へは地域連携の便りとともに病院広報誌も配布しておりますが、より広く当院を知っていただけるよう、今後とも積極的な情報発信に努めてまいります。
6	4 患者サービスの充実	2 医療通訳者の配置	医療通訳者の配置について、令和3年度からポルトガル語の通訳者が2名になり医療通訳者の配置に努力されていると思いますが、近年ベトナム籍の方が増えているように思います。ベトナム語の通訳者が必要かと思われます。	ご指摘のとおり、ベトナム国籍の方は増えておりますが、医療通訳業務は医療用語を翻訳するための知識が必要であり、大変難しい業務です。ベトナム国籍の方は、在留期間が比較的短く、医療通訳を行っていただく人材を確保することは困難です。そのため、ポケットクや患者さんがお持ちいただく翻訳アプリ、あいち医療通訳の通訳派遣などで対応しております。
7	4 患者サービスの充実	3 待ち時間対策の強化について	小児科の外待合室が他の科と合同になっていて、親子とも長時間待つのは難しいです。電車の中などと同様に、子どもの大声を嫌がる大人もいるので気が抜けず、待ち時間が長く感じます。 比較すると、小児科の個人クリニックの待合室では(限度はあるものの)子どものぐずり声、はしゃぎ声などはお互い様だね、と親同士許容し合う空気があります。TVアニメが流れて子どもが多少見てくれているのも、看病で疲れている親にはありがたいです。 小児科の待合室を囲むなどして独立させ、明るくなごやかな雰囲気にし、親子ともストレスなく待てるようにしていただけるとありがたいです。	小児科の待合室については、絵本やおもちゃを置くことにより待ち時間を過ごしていただいておりますが、現在は、新型コロナウイルス感染症対策として撤去させていただきます。 待合室の囲いですが、お子さんが走り回り衝突をする恐れがあり、危険防止のため現状のままとしておりますのでご理解ください

3 委員からいただいたご意見と当院の考え方について

番号	取組項目	委員からいただいたご意見	当院の考え方
8		<p>医師会員医療機関との病診連携を強化するために、改革プランにおける以下の項目の目標達成を重点的にお願いしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門外来の開設・強化 2) 地域包括ケア病棟の増設及び安定的な運用構築 3) 救急患者受け入れの強化 4) がん診療機能の充実 5) 医師の確保(寄附講座開設による常勤医師の増員も含む) 6) 紹介件数の向上(「お断り事例」がないようにお願いしたい) 7) 事務職員のプロパー化促進 8) 専門スタッフの計画的育成 	<p>今年度末に国が公立病院経営強化ガイドラインを策定する見込みであり、その内容に沿って対象期間を令和9年度までとした新たなプランを策定する予定です。その際、委員の皆様からいただきました貴重なご意見等を考慮し、地域の医療機関との病診連携はもとより、働き方改革の視点、感染症対策の視点など、時代や当院を取り巻く環境などを踏まえた計画を検討してまいります。</p>
9		<p>現在の改革プランに列記されている各指標は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック以前に設定されたものであり、コロナ過により大きく変貌した医療現場を正しく評価できない。COVID-19との戦いを続けている現場を評価し、改革を進めるためには、プランの各指標の目標設定や妥当性について、改めて真摯に再検討すべきであると考えている。</p>	
10		<p>一色・吉良・幡豆町内からの通院の交通の便宜を考えたらどうでしょうか</p>	<p>当院までの公共交通機関のあり方につきましては、西尾市全体の公共交通のあり方の中で協議、検討、決定されており、当院独自で取り組むことはできません。しかしながら、当院は治療のために来院される方の施設であることから、少しでも交通の利便性が図れるよう市と連携してまいります。</p>
11		<p>以前、話のあった、西尾市民病院老朽化に伴う新設工事と病院までの道路整備工事等の話は、現在はどのようになっていますでしょうか？</p>	
12		<p>看護師不足について今後も続くと思われる。西尾市立看護専門学校の定員を増やすことはできないか？</p>	<p>西尾市立看護専門学校の定員につきましては、当院で決定できる案件ではありませんが、現状、看護専門学校の教職員に余剰はなく、また定員を増員した場合、実習受け入れ先確保の問題なども生じることから、定員を増加させることは容易ではないと考えられます。定員増に向けた取り組みではありませんが、西尾市立看護専門学校の卒業生の多くが当院に就職していることから、看護学校との連携をより一層密にし、優秀な看護師養成のため、当院も協力をしてまいりたいと考えております。</p>

4 委員からいただいたご感想等について

番号	委員からいただいたご感想等
1	困難な目標が数多くある中で達成率が挙がっていることが伺え心強く思います。
2	かなり深く広く検討されていると思います。 収益向上と費用管理の改革率が高いのはご尽力の賜と思います。 患者サービスについては項目も少ない中でご努力いただいていることは読み取ったつもりで、評価すべき事項だと思います。対応患者が増加すればにわかに経営改善になるとは思いますが、地域に於ける安心感…例えば「さすがは市民病院」、「やっぱり市民病院」となる事を願っての私見です。 新型コロナウイルスへの対応はご苦勞なされたであろう事を拝察し、感謝申し上げます。
3	広報誌「Ciao」の説明も、わかりやすく、先生方も顔写真、名前入りで覚えることもでき、親しみも感じます。(広報誌はPRには欠かせないと思います。) 今現在は私自身、健康体ですので、西尾市民病院とは縁がありませんが、緊急の病になればお世話になりたいと思います。 私は自宅に近いクリニックをかかりつけにしています。西尾市民病院は、自宅からは遠すぎる。近くならお世話になります。
4	同封いただきました広報誌「Ciao」を読ませていただくと、西尾市民病院には、医療技術や能力に優れた立派な医師の先生方や療養支援を任せられる看護師さんがたくさん勤めておられることが分かります。また新入職医師や初期臨床研修医さんたちも口をそろえて、「自分を高め、患者さんたちを支え続けたい」と語っておられます。 このような医師の方々や看護師さんの生の声を大切に、質量ともに充実した医療人材の発掘に向けて努力してほしいと願っています。
5	小さな子どもの入院は、付き添う保護者や留守番を強いられる兄弟姉妹の負担が大きいです。自宅から近く、入院設備がある貴院を受診したいと考えている保護者は多いと思います。 一方で、貴院は総合病院であり、受診時間に制限があるのは仕方なく、受診しやすさで個人クリニックと競うことはないと思います。むしろ、小児科の先生の専門をもっとアピールし、個人クリニックではできない専門的な診察・治療を求める親子の受け皿になっていただきたいです。
6	医師の確保については常勤医師人数が目標に達してはいませんが、人員増加に尽力されており、医師の働きやすい環境づくりにも力を入れており病院の活性化が感じられる。 コロナ流行期に発熱し、開業医に車の中で受診してもらった。土曜日午後、再発熱し市民病院で対面でしっかり診てもらうことができた。設備の整った病院があるのは安心と実感した。

5 今後の予定について

西尾市民病院改革プランの対象期間は、平成29年度から令和2年度までの4年間となっております。現時点において、国から新たなガイドラインが示されていない状況にあります

令和4年度については、国の新たなガイドラインに従い、これまでに委員のみなさまからいただきました貴重なご意見を参考に、新しいプランを策定する予定をしております。